



コルネリオ会

(防衛関係キリスト者の会)

ニュ・スレタ - No.114

2007年4月

日本キリスト教団総会議長 山北宣久牧師説教

今回は、2006年11月25日(土)に我キリスト教会(新宿)でなされた全日本救いの福音宣教大会での説教を特別に掲載させていただきました。

(編集子)

今度、私は1ヶ月前の日本キリスト教団の総会で、3度目の議長に選出されました。教団議長がこの会に出る事は、ある人達からは自殺行為だと言われました、ついに彼も頭にきたか、焼きが廻ったかと。自衛隊、防衛大学と聞いただけで拒否反応があることは、非常に残念なことであると思います。

私は、そういう中であって、お呼び頂いたことを本当に感謝しております。立場をはっきりする良い機会を与えられたと思っております。私の名前は山北宣久(のぶひさ)、音読みではセンキュー、お招き頂き「センキュー」、これが私の実感です。

私はやりますよ、そういう中であって。なぜならば、日本キリスト教団はすべての人に救いの責任を果たす責任を持っていないのでしょうか。先ほどの「証」を聞いて励まされたところですが、私は、教団がプロテスタントの中であって、最大の教派であるならば、教団を生かさなければならない。教団は1ヶ月前の第35回総会において、私達は、神の前に伝道しなかったことを懺悔(ざんげ)して、諸教派の人とともに日本の救いのために立ち上がろうではないか。これまでの40年間、「荒野の40年間」は紛争に次ぐ紛争で、神に申し訳ない、本当に悔い改めをし、これから伝道しようという決議を私は12項目にして発表した。そうしたら議長不信任案が出

されたが、議場はそれを否決し、新たに伝道決議をした総会議長を再選したのです。

私は、議長に選ばれて最初の公的な仕事としてここに来ました。私は逃げも隠れもしない、本当に良い機会を与えられたと思っています。これからみんな一緒にやりましょう。日本の救いのために励みましょう。

人間とは何か、いろんな定義が、人の数だけある。しかし、これだけは言えるというのは、「人間は他の人を見ることは出来るが、自分を見る事が出来ない存在だ」ということです。人間の目は外側につけられており、他の人には非常に厳しい、あんなことをしている、こんなことをしていると言う。しかし、それ以上のことをしている自分自身には甚だ甘い。他の人を見る事が出来るが、自分を見る事は出来ない。そのことから悲劇が生まれる。その中であって人は何を必要とするか、それは「鏡」であります。そこに映し出された自分を見るのであります。

「聖書が鏡である、もって己が心の姿を映すべし」。そういう意味において、私達は鏡を見るのです。私は、とっくに鏡を見る楽しみを失っています。それでも、今日皆様の前に出るにあたり、ネクタイをして無い髪を束ねて来ました。つまり、人の前に出るのに鏡を見て身を整えるのであれば、神の前に出るのに私達はどこで己が姿を正すのでしょうか。聖書以外にはありません。私達は聖書を通して、鏡を見るごとくに自分の姿を見、自分の生きる姿をそこで再発見することができる。私達は聖書を通して、これが自分の姿だ、ここで言っているこの人は、私そ

のものではないか、そういう形において私たちは聖書を通して自分の姿を見るわけでありませぬ。

聖書は、そうしたことで満ち満ちていますが、今日は一つ非常に印象的な言葉を引用したいと思ひます。マタイによる福音書10章31節にある「あなたがたの頭の毛までも、みな数えられている」。これはとても印象的な言葉です。私は、頭の毛のことをしゃべりたくないが、しかし、これはとてもチャレンジングなことばである。人は心の中では「本当に自分のことを一番よく知っているのは自分だ」と思っています。教師も家族も友人も表面的なことしか分かっていない、牧師なんかも分かっていない。一番自分のことを知っているのは、自分だと思ひている。そうなんではござらぬか？勿論そう言える面もあります。しかし、決定的なところで、そう言えないのです。

私は、どこから来て、どこへ行くのか知らないのです。私は、いかになるべきか知らない。もっともらしく手帳を持って、スケジュールを来年の手帳に写し替えておかねばならないと思ひている。だけれども、それができる保障は何もない。私は、来年どうなるか分からない。日本のある作家は言ひました。「人間はどこから来てどこに行くのか知らない、そして、風がどこから来てどこに行くのか知らない。それで、人間は風の音を聞くと無性に寂しがる」。もうじき木枯らしが吹くでしょう。風がどこから来てどこへ行くのか知らないのです。イエス様はそうおっしゃいました。人間はどこから来てどこへ行くのか知らない。だから、人間は木枯らしの音を聞くと無性に寂しがる。そういうおぼつかなさを持って私達は生きています。ですから、私達は自分のことを一番よく知っていると言ひ切れない面がある。しかし、聖書はイエス様を通して「あなたの頭の毛までも、みな数えられている」と言ひます。これは、どういうことではござらぬか。

アメリカの百科事典には、人間の頭の毛は14万本であると書いてあります。日本の平凡社の百科事典には、10万本だと書いてある。日米でこんなに差があるのではござらぬか？

私は、床屋に行って聞ひた事があります。理容学校

では8万本であると教わったと言ひます。みな違ひます。ということは、私達は数え切れない、つまり、自分のことを一番良く知っていると言ひえない面がある。しかし、聖書はそこで言ひます。「頭の毛までも、みな数えられている、一本残らず数えられている」。これはアリセミオという言葉が使われている。この言葉が数学に転用されているのです。これは聖書から出て学問の分野を示す言葉になっている一つです。つまり、「神様がすべて、私たちのことを、イエスを通して知っている」と言ひます。

皆さん、それはすぐ福音だと言ひますでしょう。ありがたいと思ひますでしょう。私は思ひません、ずっと思ひませんでした。なぜならば、あなたのことをみんな知っているのだと言ひられたら、私はありがたいととても言ひえない。あのことはどうなのだ、私は見たのだぞ、あのことはどう説明するのだと言ひられたら、もうここにいらなくなってしまう。そういう場面をたくさん持っているのがこの私です。ですから、あなたの頭の髪の本一本残らず数えられていると言ひられたら、たちどころに消えてしまひたい、そういう恐れを持つのです。

しかし、ここでは「あなたの髪の本一本残らず数えられている。だから恐れる必要はない」と書かれている。これが福音なのです。

だから恐れる必要はない、なぜでしょう、「神は、どんな小さな罪も見逃さないお方です。けれど、神はどんな大きな罪をも赦すお方です。」ここに、十字架が立つのです。私達の罪を見逃さない厳しい神が、どんな小さな罪をも見逃さない。しかし、どんな大きな罪をも赦す、それは神が、あなたがたの罪を担うイエス・キリストをお与えくださったからです。

イエス・キリストは十字架に付けられ、すべての人を招くような姿で、両手を広げておっしゃいました。息も絶え絶えに「父よ、彼らを赦してください。彼らは何をしているか、自分でも分からずにいます。」これは、十字架上のイエスの最後の7つの言葉の一つです。「父よ、彼らを赦したまえ、彼らはそのなすところを知らざればなり。」このイエス・キリストが十字架において、私達を担ってくださるためには、受け入れてくださるには、私達はどんな小

さな罪をも見逃さない、けれども、どんな大きな罪をも赦す方が言うてくださるから、髪の毛一本まで数えられている、けれども恐れる必要はないと言うてくださる方のもとに救いを得るのです。

キリスト教信仰を一言で言うことができないかと質問されます。こんな厚い聖書を使っているいろいろなことを言っているけれども、一言では言えないのか。仏教では「南無妙法蓮華経」「南無阿彌陀仏」と唱える「唱名」(しょうみょう)というものがある。キリスト教的「唱名」は無いのかと言われる。実はあるのです。当然あります。それは言うまでもありません。「インマヌエル、アーメン」という言葉です。あと1ヶ月もすれば、再び感謝とともに、このインマヌエルという言葉を知ることができます。「神、我らと共にいます。」という意味なのです。これがマタイ1章23節にイエスが生まれたときに響いた言葉です。それは預言者イザヤが言った7章、8章の言葉が成就したということです。「神、我らと共にいます。それはアーメンだ」「本当にその通りなのだ」。

私達は、真実で始まり不真実で終わってしまいます。しかし、神は不真実なるものをイエス・キリストあって真実に極まってくくださる。故に、私達を真実に変えてくださる。常に私達は、始めと終わりがつながらない人生の中にあっても、アーメン、真実、と仰てくださる方の下に人生を終わることができるのです。そして、私達の祈りも賛美もアーメンで終り、この集会もアーメンで終り散らされてゆくのです。私達は「インマヌエル、アーメン」「神、我らと共にいます。それは真実」、その方のもとに私達はあなたの髪の毛まで数えられており、赦されている、だから、恐れる必要は無い。このことであって、私達は、イエス・キリストが仕えきってくださるなら、何を恐れる必要があろうか、「我弱くとも恐れはあらず、我が主イエス、我が主イエス、我を愛す」日本で最初に歌った讃美歌が、私達に福音として迫ってきます。

聖書には、百人隊長がたくさん出てきます。どの百人隊長も印象的です。最初に十字架の下で、血潮したたる十字架のもとで信仰告白をしたのは誰でしょう。「誠に、この人は神の子であった。」と言った

百人隊長でした。

ジョンウエインという映画俳優をご存知でしょうか、この辺から年代の層が分かります。ジョンウエインという人は、かつてあれだけたくさんの映画に出た最高の俳優でしたが、私の俳優人生の中で一番決定的なありがたいセリフは、「偉大な生涯の物語」で、百人隊長をやって、十字架のもとで「誠にこの人は、神の子であった」、この一言を言わせてもらったことが、私の俳優人生の中で、本当にありがたい全てを象徴する言葉であると言ったのを忘れられません。

コルネリオ会の名前になっている「コルネリオ」もそうです。またパウロを何とか生かそうとした隊長もそうです。これらの百人隊長はみんな、本能的というよりも、イエスの姿を見て、本当に自分が命をかけてでも人を守る、私が神に救われているならば、私も命をかけて神の作りたもうた人を守るという形において、その忠誠心・ロイヤリティを尽くした、ということだと思います。私達は、そういう意味において、本当にそういうことを考えねばならないことだと思います。

ローマの古文書の中に、百人隊長について、こういう定義があります。昔の訳語は「百卒長」でした。

「百人隊長は、危険を犯す冒険家であるよりも、むしろ、日頃養った機動力のある部下を率いて冷静沈着に行動する、そういう信頼のおける指導者でなければならない。戦闘にあたっては、戦友を見捨てることなく困難を貫く士気を与えるべく忍耐を持って部下を励まし続け、攻撃を受けたときは、その拠点を守り、身をもって守り抜くためには、死ぬ覚悟ができていなければならない。」これはローマの軍律厳しい中であって、百人隊長の掟でした。その百人隊長はイエスが命をささげて御旨を守った、つまり私たちの全身全霊を罪の力から守り切り救い出して神にお委ねするというのを、敏感にわかったのだと思います。そういう意味において、日本のいろんな難しい中であって、自衛官の方が、また、防衛大にあつて幹部になる方が主イエスの兵卒として最前線にあつて、イエス・キリストの福音に一番近い方だと思います。十字架というものは、有体に言えば、こう

なるのではないのでしょうか。「あちら立てればこちらが立たず、両方立てれば我が身が立たぬ」。

そういう両方立てれば我が身が立たない中で、一歩も退かず人々の救いのために身をもって守る。そういうファイティングセイントがいるということが、世界を結局は救っていくことになるのです。マタイ8章に出てくる百人隊長は本当にそういう形において、僕のために命乞いをして、「ただ御言葉をください」と言った。部下のために命乞いをする人はいなくも無いでしょう、しかし、僕=奴隷のために、奴隷を煮て食おうと、焼いて食おうと自由な時代に、そういう人のために命乞いをして、「私も権威のもとにあります。部下は行けと言われれば行きます。やれといえばやります。死ねと言われれば死にます。あなたは神の子イエスであり、あなたの御言葉はすべてを決めます。ただ御言葉をください」。こう言ってイエスにひざまずいた、そういう百人隊長がいたということが書かれている。

百人隊長と自衛官を直結しようとは思いませんが、ほとんど重なる点があると見ることはできないのでしょうか。そういう意味で、両方立てれば我が身が立たぬ中であって、「神、我らと共にいます、インマヌエル、アーメン」と言う言葉をもって、救いを本当に戦いぬいてゆく、そういう戦士のために祈らざるを得ないのではありませんか。そういう人に、イエス・キリストの福音を、熱く、そして、愛を持って伝えたい。人をかたより見ない神にあって、主イエスの福音を宣べ伝えることにおいて一つになりましょう。

感謝します。

ハレルヤ。

お祈りします。主よ、感謝いたします。私達はこの夕べ、全ての人に救いの責任を果たすべく

「第4回全日本救いの福音宣教大会」を持つことができたことを感謝いたします。この後面にもありますように、「見よ、私は世の終りまで、いつもあなた方と共にいる」このインマヌエルなる神がいてくださることをアーメンと信じて、私たちが遣わされてゆくものとなりますように、一人一人に豊かに聖霊の実をお与えください。

そして、また、日本の教会が門戸を開き、特に日本キリスト教団が開かれた教会として、この重大な使命をもつ自衛官の方々のためにも、また、その方々を通して救いが広がり、また、本当に教会の門戸が広げられる道を選ぶこととさせていただきます。あなたの栄光を現すために、私たちを用いてください。主イエスキリストの御名を通して祈ります。アーメン

アジア大会の案内

2007年アジア大会が下記日程で行われます。

多くの皆さんの参加を御願いたします。

大会テーマ：Do the Work of Him (ヨハネ9章4節)

時期：07年10月16日～18日

場所：台湾、台北 主催：台湾MCF

大会参加費：250米ドル(10月16日～18日の間の宿泊、食事台北市内交通費全てを含む)

申し込み用紙、日程(案)は同封資料を参照ください。

お願いとお知らせ

- 1 異動等される方は異動先を是非ご一報ください。
- 2 コルネリオ会は毎月例会を持っています。都合のつく方は是非ご参加をよろしく願います。
- 3 ニュースレター発行は2006年は3回です。(4月、8月、12月)
記事を投稿されたい方は1ヶ月前までに、下記あて先までメールか郵送でお送りください。
- 4 献金のご協力をお願いします。
- 5 金学根先生が証集を編集中です。ご協力くださる方は hkk628@hotmail.com まで原稿をお送りください。よろしく願います。

コルネリオ会 (JMCF)

(防衛関係キリスト者の会)

コルネリオ会広報室

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南 5-33-8 2-33

電子メール: hidenobu-sayuri_enrin1211@y3.dion.ne.jp

郵便振込口座 00130-3-87577 コルネリオ会

コルネリオ会ホームページ:

<http://www.geocities.jp/samuel1/index.html>